



## 地域をつなぐ

「生活支援コーディネーター」

「支え合いの地域づくり」が今年度から始まっています。この支え合いの地域づくりでは生活支援コーディネーターが皆さんのお手伝いをしています。

「生活支援コーディネーターって何する人？」という声が聞かれます。生活支援コーディネーターは、社会福祉協議会に配置されており、高齢の皆さんが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていただけるよう「つなぐ」ことがその役割です。具体的には五つの仕事が挙げられます。

## 1 情報をつなぐ

地域の特徴と暮らしやすい取り組みを把握した上で、その地域の困りごとを皆さんと一緒に考えます。

## 2 人と人をつなぐ

困りごとが少しでも解決するよう色々な人とつながり、つなげ

ます。

## 3 人と場をつなぐ

今より暮らしやすくするため、地域の皆さんが主体となる場作りに協力し、参加を呼びかけます。

## 4 人と活躍の場をつなぐ

その地域に足りない事があれば立ち上げに協力し、協力してくれる人が増えるよう取り組みます。

## 5 人と支援をつなぐ

住民自身の手で解決できる問題は何かを見つけ、解決できるようにお手伝いをします。

世代や立場を超えてつながる事で皆さんの地域が「自分らしく暮らし続けられる地域」になるよう、生活支援コーディネーターと一緒に取り組んでみませんか。

## 支え合いの地域づくり勉強会

と き 9月26日(水)  
午後1時30分～3時  
対 象 東部・北部・西部・蒲郡公民館区域にお住まいの方  
問合先 生活支援コーディネーター(社会福祉協議会 ☎ 69♦3911)、長寿課



## 知っていますか？ 水田を守る小さな守護者

稲穂垂れる9月。爽やかな風が金色の水田を揺らす秋がやってきました。米の収穫がすぐそこまで迫っていますね。

古来より日本人の食を支え続けてきた米。水田で大切に育てられている食卓の主役を、人知れず守っている小さな生きもの、という、何が思い浮かぶでしょうか。鳥や昆虫などさまざまな生きものの姿が浮かんだかと思いますが、今回ご紹介するのは、小さなネズミの仲間です。

「えっ！ネズミなんて、米を食べる害獣では？」と思われた方がいるかもしれません。確かに、人家に現れるハツカネズミなどは、米を食い荒らすことがあります。しかし、最も米に近い、水田の周りをすみかとする「カヤネズミ」は、ほとんど米を食べないことが、最近の研究によって明らかになりました。

日本最小のネズミ、カヤネズミは、体重7～8グラム、毛色は明るいオレンジカ茶色で、丸い目をもち、かわいらしい顔をしています。休耕田や河川敷などの草むらで、スキヤチガヤなどのイネ科の植物を利用して、球形の巣を作

ることで知られています。彼らの主食は、稲を食い荒らすバツヤイナゴ、それからイヌビエなどの雑草です。時にはほんの少し稲を食べることもあるようですが、カヤネズミにとって米は大きすぎるのか、ほとんど口にしないようです。つまりカヤネズミは「稲の守護者」のひとつといえますが、生息数は全国的に少なく、絶滅が心配されています。



親指サイズのカヤネズミ。豊かな草地の指標生物とされています。

生命の海から

学芸員  
松本万尋

生命の海科学館  
☎ 66♦1717